

星
ほし

宙
ぞら

通
つう

信
しん



浪合パーク
2024,12,23発行
#8

あけましておめでとうございます！

2025年の浪合パークもどうぞよろしくお願いいたします。

クリスマス前から寒波で年末にも寒波の予報になっている雪の多い冬となりそうです。

新年を迎えた星空には、星座の星々とともに、明るい惑星が輝き、冬の夜空を一層にぎやかにしています。西の空で日没後まだ明るい内から輝くのは金星です。なんと-4.6等という明るさ。中旬ころにはすぐ近くに土星が並びます。さらに木星、火星と惑星大集合です。

1月の夜空

- (12月31日(金) ● 新月)
- 1日(水) 元旦
- 4日(土) しぶんぎ座流星群が極大
- 5日(日) (二十四節気) 小寒
- 7日(火) ● 上弦
- 10日(金) 金星が東方最大離角(-4.5等)
- 12日(日) 火星が最接近(-1.4等)
- 14日(火) ● 満月
- 17日(金) 火星が衝(-1.5等)
- 20日(月) (二十四節気) 大寒
- 22日(水) ● 下弦
- 29日(水) ● 新月

1月オススメ星座

ペガサス、アンドロメダ、カシオペア、ペルセウス、くじら、ケフェウス、ぎょしゃ、おうしオリオン、おおいぬ、こいぬふたご、うさぎ、エリダヌス



今月の天体イベント①

金星が東方最大離角

「離角」とは「見た目、太陽からどれくらい離れているか」を表す数字ですが、「東方最大」とは、「太陽から東に一番離れて見える」、つまり太陽が沈んだ西の空に高く見える事になり、金星の観望好機となります。

今月見頃の天体

M45すばる、ぎょしゃ座～ふたご座の散開星団
M42オリオン大星雲、
M31アンドロメダ銀河
ペルセウス座二重星団
= 惑星 =
火星、金星、木星

今月の天体イベント②

「しぶんぎ座流星群」が極大

3大流星群のひとつ「しぶんぎ座流星群」が4日0時にピークを迎えます。「しぶんぎ座」という星座は現在はありませんが、流星群の「放射点」は、うしかい座あたりなので、おおぐま座の北斗七星を目安にすれば良いでしょう。この流星群の最大の特徴は飛来のピーク期間が極端に短いことです。お正月三が日明けの真夜中0時。月のない最高の条件で流星を楽しめます。

今月の天体イベント③

12日火星が地球に最接近

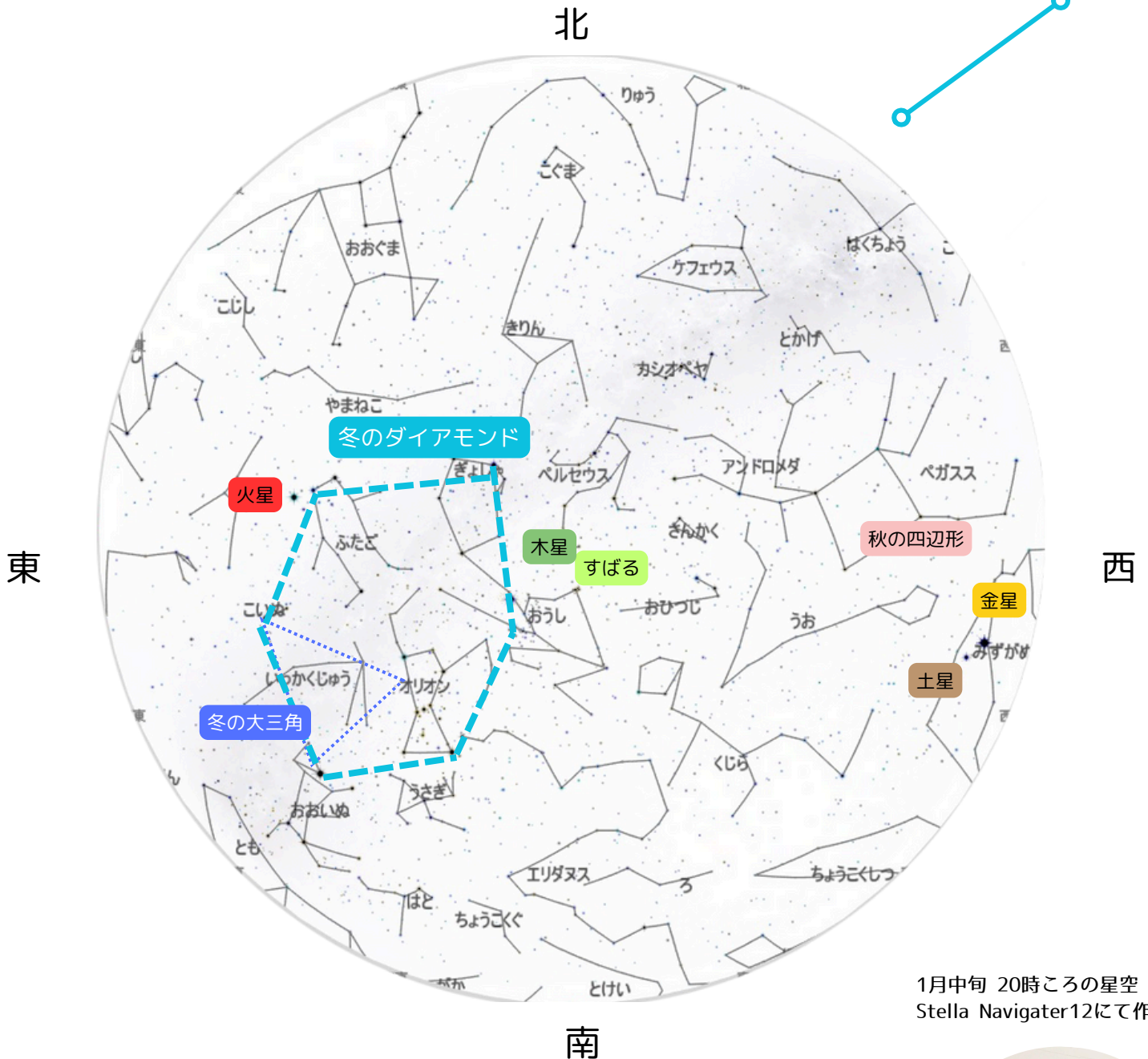
火星と地球は約2年と2か月ごとに接近します。火星の公転軌道(太陽を回る軌道)は楕円のようになっているため、地球と接近する位置によって「最接近」といってもだいぶ距離に違いがあります。大接近となる時は5,700万kmほどですが、遠いと1億kmを超えます。今回は9,000万kmほどの「中接近」ですが、それでもかなり明るくなります。この冬、かに座からふたご座へと移動して来る様子もわかります。

冬の星座や惑星が大集合の冬の空は大注目！

この時期、西の空には秋の星座、東の空には冬の星座が広がっています。

西の空には「秋の四辺形」が大きなカーペットのような正方形を作っています。

東の空に広がるオリオン座、おうし座、ぎょしゃ座、ふたご座、こいぬ座、おおいぬ座には、それぞれ、ベテルギウス、リゲル、アルデバラン、カペラ、ポルクス、プロキオン、シリウスと七つの1等星が輝き、これらを結んで「冬の大三角」「冬のダイヤモンド」を作ることができます。



1月中旬 20時ごろの星空
Stella Navigator12にて作成

記事を書いた人

星空案内人認定制度により、2015年に「星空案内人」となる。
飯田市美術博物館プラネタリウム解説員として5年、阿智村
「天空の楽園 ヘブンスそのはら」にて星空ガイドを6年担当。
わかりやすい解説、もっと星を見たくなる、知りたくなる星空ガイドを
心がける。小さな天文学者の会会員。
長野県プラネタリウム連絡協議会会員。



星空案内人 川手俊美